

第3回社会教育指導者等で構成される団体による実践交流会 事例発表

広島県生涯学習研究実践交流会 運営の成果と課題

～広島発の生涯学習・社会教育のネットワーク拠点づくりを目指して～



広島県立生涯学習センター
振興課長 西田 光治
社会教育主事 寺川 博人

● 広島県生涯学習研究実践交流会の概要 ●

1 開催趣旨

「広島ならではの」の取組を生かして、生涯学習・社会教育関係者の広範なネットワークの拠点としての役割を果たす

2 主催者

広島県教育委員会, 日本生涯教育学会瀬戸内支部

3 開催時期

毎年2月の土曜日の午後で開催(今年度3回目の開催)

4 会場

広島経済大学立町キャンパス(JR広島駅から市電で15分)

● 広島県生涯学習研究実践交流会の概要 ●

5 具体的なねらい

- 「広島ならではの」の取組を生かした、生涯学習・社会教育の最新情報を提供することで、参加者に様々な学びや気付きを持ち帰ってもらう。
- 生涯学習・社会教育の関係者相互にとって、年1回定例の意見交流の場(同窓会の場)として活用してもらう。
- 広島県立生涯学習センターの実施する研修受講者にとって、研修成果の発表の場として活用させてもらう。
- 広島県立生涯学習センター職員の学びの機会としても活用させてもらう。

● 広島県立生涯学習センターの概要 ●

1 設置目的

県民の生涯にわたる学習活動を促進し、援助する。

2 沿革

昭和57年10月 広島県立社会教育センターとして開所
平成 元年 4月 広島県立生涯学習センターに改組

3 業務の特色

- 平成21年3月から貸研修室の提供業務を廃止。
- 平成21年4月から、市町や関係機関・団体等と連携・協働を図りながら、「調査研究」、「情報提供」、「指導者養成（研修）」などのソフト面に特化して取り組んでいる。
- 特に市町関係職員等の資質向上は重要な取組として位置付けている。
- 非常勤特別職の生涯学習推進マネージャーを設置。

● 広島県生涯学習研究実践交流会企画のきっかけ ●

1 議論の端緒

- 広島県立生涯学習センターの研修成果を高めるために、一度の研修の機会だけで終わらない継続した人材育成はできないか。

2 問題解決の方向性として

- 研修成果を発表する場を設けてはどうか。
 - ⇒ やるなら、県内外の生涯学習・社会教育関係者に集ってもらい、学び合いの場としても活用してもらおう！
 - ⇒ 集まってもらいやすいように、土曜日の午後から、広島市内の交通至便の地で行おう！

● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【内容を考えるに当たって】

研修修了者等の成果発表の場として、小さな規模の発表会をイメージ



県内を中心に県外にも広報



113名の方が参加

参加者の内訳は、県内94名、県外19名

広報してみたて分かったこと ↓

県外も含め、多くの方が生涯学習・社会教育に関心がある

● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【概要】

【講演】

「連携・協働のプラットフォーム序章」
香川大学生涯学習教育研究センター
センター長・教授 清國祐二

【分科会テーマ】

第1分科会:地域リーダーへの支援
第2分科会:地域づくりへの支援
第3分科会:青少年への支援

【発表者】

研修修了者 10名
広島県立生涯学習センター職員 3名

平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回)

【内容】

平成 24 年度	12:30	13:00	13:10	13:40	13:45	16:55
	受付	開会 行事	講演 講師 香川大学生涯学習教育研究センター センター長・教授 清國 祐二	移動	研究実践発表会 第1分科会 地域リーダーへの支援 第2分科会 地域づくりへの支援 第3分科会 青少年への支援	閉会 行事

第1分科会	住民主体のまちづくりへ ～ワクワク会議が地域を活かす～	渡辺 直子 (福山市松永生涯学習センター)
	「公民館活動推進サポーター」の取組に見る、これからの地域支援の可能性 ～「広島市公民館活動推進サポーター」の活動をとおして～	漆谷 恵美 (広島市草津公民館)
	アイスブレイク	河野 良輔 (福山市中部生涯学習センター)
	シニアが活躍できる場をつくる	上田 美穂 (廿日市市宮園市民センター)
	「『親の力』をまなびあう学習プログラム」を持続可能な取組としていくために ～ファシリテーターの果たす役割を中心に～	松田 愛子 (広島県立生涯学習センター)
第2分科会	地域の情報化とまちづくり	高路 貴子 (広島市三篠公民館)
	ネットワークと公民館 ～ネットワークから公民館の事業計画を考える～	下前 裕美 (広島市グリーンスポーツセンター)
	学校と地域との連携におけるコーディネート ～安芸高田市の問題点と今後の方向性～	若狭 孝祐 (安芸高田市民文化センター)
	生涯学習振興・社会教育関係職員等研修(初級研修)の充実改善 ～受講者アンケートの分析を中心に～	大下 展弘 (広島県立生涯学習センター)
第3分科会	時代背景に見る勤労青少年の課題および勤労青少年ホームの役割について	三村 富雄 (広島市中央勤労青少年ホーム)
	青少年の居場所	高橋 文子 (福山市北部生涯学習センター)
	「青年の父 山本瀧之助」から学ぶ社会教育	高柿 尚子 (福山市南部生涯学習センター)
	大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」派遣の成果と課題 ～放課後子ども教室の 充実・活性化に向けて～	小早川 かおり (広島県立生涯学習センター)

● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【開会行事】



● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【清國教授による講演】



● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【分科会での意見交流】



● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【成果と課題】

【成果】

- 研修修了者(10名)に対する一過性では終わらない資質向上のための機会を提供することができた。
- 広島県立生涯学習センター職員(3名)にとっても、職員が自らの業務に関係する内容について研究した成果の発表を行い、資質向上のための機会を得ることができた。
- 参加者からも、学び合いの中でネットワークを広げることができたとの評価をいただけた。

● 平成24年度広島県生涯学習研究実践交流会(第1回) ●

【成果と課題】

【課題及び解決の方向性】

- 発表者が全員広島県内の者であり、近県の方にも発表者として声を掛けることで内容がより深まるのではないかという意見があった。
- 結果的に発表の数が多くなり、意見交流の時間が少ないという意見が多くあり、交流の広がりに関する評価が低かった。
 - ⇒○ 県外の方にも発表してもらおう方向で調整してみる。
 - ⇒○ 意見交流の時間を増やす工夫を行う。

● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【内容を考えるに当たって】

平成24年度の課題を受けて

近県で活躍されている方にも発表を依頼する。

意見交流の時間を確保(発表本数を精選)する。



発表内容が多様化し、意見交流の時間が増加した。



101名の方が参加

参加者の内訳は、県内73名、県外28名

● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【概要】

【講演】

「協働とネットワーキングをどのように進めるか
～生涯学習実践の拡大と深化を目指して～」

大分大学高等教育開発センター 准教授 岡田正彦

【分科会テーマ】

第1分科会:家庭教育支援

第2分科会:青少年への支援

第3分科会:まちづくりへの支援

【発表者】

研修修了者 4名

他県職員及び他県市町職員 3名

大学研究者等 2名

広島県教育委員会職員 1名

広島県立生涯学習センター職員 1名

平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回)

【内容】

平成 25 年度	12:30	13:00	13:10	13:40	13:45	16:55
	受付	開会行事	講演 講師 大分大学高等教育開発センター 准教授 岡田 正彦	移動	研究実践発表会 第1分科会 家庭教育支援 第2分科会 青少年への支援 第3分科会 まちづくりへの支援	閉会行事

分科会	題目	発表者(所属)
第1分科会	家庭教育支援メール配信の実施に向けて～保護者に役立つ情報を届けるために～	沖田 弘子 (安芸高田市教育委員会)
	広がっています！ 子育ての「輪」～親学プログラム 大田市の取り組み～	幸増 千世, 吉田 茂延 (大田市教育委員会)
	乳幼児期における家庭教育支援の在り方について～家庭における乳幼児のこたばの充実を中心に～	加藤 浩司 (広島県教育委員会)
全ての親が安心して子育てや家庭教育を行うための支援が、教育施策の重点に掲げられる一方で、支援を届けたい親、家庭にこそ、なかなかそれを届けることができないといった課題もよく耳にします。この分科会では、家庭教育支援の情報や学習機会の内容、また、その提供方法や形態に関する先進的な事例や調査結果について発表していただきます。		
第2分科会	子どもたちの～聞いてみて・見てみて・触れてみて・気づいたことを表現しよう～を引き出すための事業企画“まなびっこ”アカデミー	小川 佳江 (福山市中部生涯学習センター)
	熊本県「地域の寺子屋」推進事業とそこでのボランティア活動を通じた大学生の学びと成長	天野 かおり, 藤本 桃子 (尚絅大学)
	すべては子どもたちの笑顔のために～おかやま子ども応援事業を通して～	東川 絵葉 (岡山県教育委員会)
青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、多様な奉仕活動や体験活動の機会が重要であり、その拡充に向け、様々な人々と地域全体で取り組むことが課題となっています。この分科会では、社会教育施設職員、大学生、県行政職員というそれぞれの立場から、地域の青少年活動支援に取り組む事例とその課題について発表していただきます。		
第3分科会	大竹市の伝統技術～手すき和紙の継承のために～	中本 篤子 (大竹市教育委員会)
	学習活動における変容について～第三者の関わりと変容～	石川 哲郎 (広島市祇園西公民館)
	学び合いを通じた職員研修の在り方～「研修」「職場」「地域」による学びの連環を目指して～	松田 愛子 (広島県立生涯学習センター)
まちづくり活動の支援は、生涯学習・社会教育の分野では比較的新しい課題であり、その分、実践の蓄積が浅い分野でもあります。この分科会では、このような新たな課題を、他部局・施設、地域団体、市民と連携・協力して進めていく計画づくりや、そのために必要な職員の専門的力量的形成について発表していただきます。		

● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【岡田准教授による講演】



平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回)

【分科会の発表】



● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【分科会での意見交流】



● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【成果と課題】

【成果】

- 県外の方にも発表をお願いしたことで、発表の内容が深まった。
- 発表本数を精選したことにより、意見交流の時間が一定程度確保でき、交流の広がりに関する評価が100%となった。

● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【成果と課題】

【課題】

- 分科会ごとに流れ解散としたため、他の分科会の様子かわからず残念だったという声があった。
- 2～3の団体が事業や取組のPRのためにチラシなどを持参され、それを配付資料として参加者全員に配付したが、「自分のところも資料を配付したかった」「配付してもらった資料について詳しく説明を聞きたかった」という声があった。
- 雪の影響もあったと思われるが、県内の参加者数に伸び悩みが見られた(県外の参加者数は増加していた。)

● 平成25年度広島県生涯学習研究実践交流会(第2回) ●

【成果と課題】

【解決の方向性】

- 参加しなかった分科会の様子がわからず残念だったという意見があったこと。
⇒○ 他の分科会の様子が分かるように構成を工夫する。
- 事業や取組のPRをしたかった, PRを聞いたかったという意見があったこと。
⇒○ 事業や取組のPRの場や時間を確保することについて検討する。
- 県内参加者数の伸び悩みについては？ (次頁へ)

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【県内参加者数の伸び悩みへの対応の方向性】

「広島」で開催することの意味をあらためて考え、県内の関係者にとってどのような内容が期待されているのか、検討した。

見えてきたものは・・・ ↓

「広島ならではの」の取組を踏まえた生涯学習・社会教育の最新情報を提供する。(県外参加者にも参考にしてもらえるもの)

ということ

そこで 分科会テーマとして、広島県をはじめ地方で課題となっている「中山間地域活性化」、広島県で「親プロ」として取り組んでいる「家庭教育支援」、広島県の研修スタイルを基に意見交流を行う「社会教育関係職員の研修の在り方」の3つを設定

そして 基調講演テーマを「地域と学びをつなぐデザイン～持続可能な地域づくりのために私たちができることを考える」とした

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【内容を考えるに当たって】

平成25年度の課題を受けて

基調講演と連動した全体会を最後に設定し、その中に意見交流の時間を設ける。

事業や取組をPRするための場及び時間を確保し、プログラムの中に正式に取り入れる。

「広島ならではの」取組を踏まえた分科会テーマを設定するとともに、基調講演も「地域と学びをつなぐことの大切さ」をテーマとする。



106名の方が参加

参加者の内訳は、県内72名、県外34名

平成24年度から平成26年度までのプログラムの変遷

平成 24 年度	12:30	13:00	13:10	13:40	13:45				16:55		
	受付	開会 行事	講演	移動	研究実践発表会				閉会 行事		
平成 25 年度	12:30	13:00	13:10	13:40	13:45				16:55		
	受付	開会 行事	講演	移動	研究実践発表会				閉会 行事		
平成 26 年度	12:30	13:00	13:10		14:00	14:20	14:50		16:20	16:25	16:55
	受付	開会 行事	講演		意見 交流	情報 交換 タイム	パネルディスカッション		移動	全体 会	閉会 行事

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【概要】

【講演】

「地域と学びをつなぐデザイン

～持続可能な地域づくりのために私たちができることを考える～

広島修道大学副学長 ひろしま未来協創センター

センター長・教授 山川肖美

【分科会テーマ】

第1分科会:中山間地域活性化

第2分科会:家庭教育支援

第3分科会:社会教育関係職員の研修の在り方

【発表】

研修修了者 2名

県内市町職員 2名

他県家庭教育支援関係者 1名

広島県立生涯学習センター職員 1名

【コメンテーター】

研修修了者 3名

広島県立生涯学習センター職員 1名

平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回)

【内容】

平成26年度	12:30	13:00	13:10	14:00	14:20	14:50	16:20	16:25	16:55
	受付	開会行事	講演 講師 広島修道大学副学長 ひろしま未来協創センター センター長・教授 山川 肖美	意見交流	情報交換 タイム	パネルディスカッション 第1分科会 中山間地域活性化 第2分科会 家庭教育支援 第3分科会 社会教育関係職員の研修の在り方	移動	全体会	閉会行事

分科会	発表テーマ	発表者
第1分科会	Discover Kitahiroshima ～北広島町の魅力 再発見～ ★キーワード : 高校生と地域の大人との交流／ふるさと創生	北広島町教育委員会 千代田中央公民館長 辰川 勝則
	高齢者の生きがい作りは、地域の元気づくり ★キーワード : 野菜販売／農家民泊	庄原市西城自治振興センター 地域マネージャー 上西 みどり
<p>本県の中山間地域では、若年層を中心とした人口の流出を背景に、全国に比べて、集落の小規模化や高齢化が大きく進み、地域の担い手の不足など、地域コミュニティを維持していく上で、深刻かつ厳しい状況に直面している。</p> <p>この分科会では、若者や高齢者に焦点を当て、本県の地域の良きリーダーとなる若者の育成事業の提案や高齢者の生きがい作りに関する事例についての発表を足掛かりに、今後の中山間地域活性化の在り方について考えていく。</p>		
第2分科会	次の世代を支える郷づくり ～豊川地区つろうて子育て推進協議会の取組み～ ★キーワード : 地域が家庭教育を支える／地域全体が学びの場	益田市豊川地区つろうて子育て推進協議会 河野 利文
	府中町子育て『学び・愛』 ～地域で広がる！和(わ)・輪(わ)・環(わ)～ ★キーワード : 親プロ／ファシリテーターの育成と組織化	府中町教育委員会社会教育課 主任 幅野 得恵
<p>家庭教育は全ての教育の出発点であり、親(保護者)はその担い手としての役割を期待されている。しかし、少子化や地域コミュニティの希薄化など、様々な要因により、その役割が十分果たされていないとの指摘もある。そこで、家庭を取り巻く様々な主体が、連携・協働しながら、家庭教育を支援することが求められている。</p> <p>この分科会では、町を挙げて家庭教育支援に取り組む事例や地域で家庭教育支援に取り組む事例についての発表を足掛かりに、今後の家庭教育支援の在り方について考えていく。</p>		
第3分科会	広島県の社会教育関係職員研修の現状 ～連携・協働による好循環の仕組みづくりを目指して～ ★キーワード : 県と市町の連携協働／少人数のゼミ形式・課題解決型	広島県立生涯学習センター 振興課長 西田 光治
	ワンタフル・アキタカタ音楽祭 “WA音”プロジェクト ★キーワード : 文化・芸術振興／地域の魅力創出・発信	安芸高田市高宮田園パラッツォ 社会教育指導員 的場 恵
<p>近年、地方公共団体の厳しい財政状況に伴う職員数の減少や職員の勤務体制の見直し等により、社会教育関係職員に対する人材育成の機会の確保がより一層重要となっている。</p> <p>この分科会では、広島県が現在実施している社会教育関係職員研修を例に今後の研修の在り方について考えていく。</p>		

平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回)

【山川教授の基調講演】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【基調講演後の意見交流】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【情報交換コーナー】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【情報交換タイム】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【情報交換タイム】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【第1分科会でのコメンテーターによるコメント】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【第2分科会の発表】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【第3分科会の発表】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【基調講演後に出た質問について答える山川教授】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【全体会における気づきのシェア】



● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回) ●

【成果と課題】

【成果】

- プログラムの最後に全体会を設けて意見交流を行ったことで、「交流会全体の中身について学びの共有が図られ、よかった」という声が多く寄せられた。
- 情報交換コーナーは、「特に良かった」という声が多く、新しいつながりの場を提供することができた。

【課題】

- 情報交換コーナーの運営については、知らない者同士が更に気軽に交流できるよう、工夫を行う必要がある。
- 県内からの参加者数に依然として伸び悩みが見られるため、更に広報等に工夫を行う必要がある。

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回)を終えて ●

【運営上のポイント】

ポイント1

日本生涯教育学会瀬戸内支部との連携

ポイント2

研修修了者の成果発表の場としての活用

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回)を終えて●

【運営上のポイント1 日本生涯教育学会瀬戸内支部との連携】

日本生涯教育学会瀬戸内支部事務局長(広島県立生涯学習センター 生涯学習推進マネージャー)を通して、日本生涯教育学会瀬戸内支部との連携・協働を更に強めていきたい。

連携・協働を更に強めていくことで、実践交流会の実施に際して、学会員の先生方から様々な高度かつ専門的な指導助言を受けることができ、内容を更に高めることが可能となる。

また、実践交流会だけでなく、広島県立生涯学習センターの活動全般にわたり、内容の高度化・充実に向けて指導助言を受けるとにもつながり、ひいては、それが広島県の生涯学習・社会教育の更なる充実につながる事となる。

● 平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会(第3回)を終えて●

【運営上のポイント2 研修修了者の成果発表の場としての活用】

この交流会は、元々、広島県立生涯学習センターの実施する研修の成果を高めるために、受講者の研修成果を発表する機会の1つとして開催の検討を始めたものである。

その後、参加者の学びをより深めるため、県外の発表者も増やしているが、研修受講者に対する継続した人材育成の場という趣旨は変わらないことから、これからも研修修了者の活躍の機会として活用していきたい。



活用実績

- ・平成24年度：発表者として10名
- ・平成25年度：発表者として4名
- ・平成26年度：発表者として3名，コメンテーターとして4名。

● 今後に向けて ●

【担当者としてのこれからの実践交流会に馳せる思い！】

☆ これからも、「広島ならではの」の取組を生かした生涯学習・社会教育のネットワークの拠点として育てていきたい。

☆ せっかく広島で開催しながら、県内からの参加者が伸び悩んでいるのが残念である。参加者からの「よかった」という声などを積極的にHPに掲載するなど、広報をしっかりと行い、広島県内からの参加者の増加に努めていきたい。

参加者	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県内(23市町)から	94名(13市町)	73名(14市町)	72名(12市町)
県外から	19名	28名	34名

● 今後に向けて ●

☆ 低予算, 限られた時間の中で, 継続して参加してもらえるよう, 知らない者同士がより気軽に交流できるような仕組みづくりを考えていきたい。

☆ たとえ他部局に異動となっても, 繋がっていける場にしていきたい。

そして 「広島ならではの」の, リピーター率の高い, 同窓会的・親睦会的な実践交流会として, 更に大きく育てていきたい。

● 参考文献・参考資料 ●

○広島県立生涯学習センターHP「広島県生涯学習研究実践交流会」のページ

(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/center-model-syokuinkensyuu-jiseenkouryukai.html>)

平成27年3月6日参照

○パワーポイント資料「広島県の社会教育関係職員研修の現状～連携・協働による好循環の仕組みづくりを目指して～」

(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/160212.pdf>)

広島県立生涯学習センターHP「平成26年度広島県生涯学習研究実践交流会 報告」のページに掲載 平成27年3月6日参照



御清聴ありがとうございました。